

## 特定非営利活動法人 奥塩江ボランティア協会

～スローライフを楽しみ持続可能な社会に貢献～



楽農人事業 茶畑再生



まんぷく会

## 経緯

- かつては木・炭・農産物の供給地や交通の要所として賑わっていたが、過疎・高齢化が進み、地区の小学校も廃校となり、地区の活気が失われた。
- 賑わいを取り戻そうと、有志20名が中心となり地区の活性化を目的として2006年に「奥塩江交流ボランティア協会」を設立した。

## 取組内容

- かつて地域で中核的な特産物であった茶の復活のため、『楽農人事業』として耕作放棄地となっていた茶畑を再生した。
- 地元で採れた食材を使い、地域内外の人が集まり調理や食事会を行っている。
- ハイキング、山菜採り、史跡紹介事業を実施し、参加者に自然と山村風景の残る奥塩江の魅力を紹介している。

## 活動の効果

- 現在はお茶だけでなく、ソバや野菜の栽培も始め、少しずつ耕作放棄地を減らすことに貢献している。
- 当協会の100名の会員は、『モモの広場』と名づけた元上西中学校・上西保育所跡と、山村『奥塩江』に残る豊かな自然・風土が好きで、『のんびり、ゆったり、心豊かに』、『スローライフを楽しみ、持続可能な社会に貢献する』を合言葉に集まっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

山村『奥塩江』に残る豊かな自然・風土を活かし、伝統文化の継承、農村文化の体験等を行っています。

ゆうげんがいしやあかまつぼくじょう

## 有限会社 赤松牧場

～ 耕畜連携と6次化で地域とともに発展～

耕畜連携



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

店内では、  
シュークリーム、焼き菓子など多彩

ジェラートショップ

お酒場で明るい店舗は、地域交流の場

## 経緯

- 経営規模の拡大と安定化を図るため、平成15年に法人化した。また、平成22年に自家製牛乳を利用したジェラートショップを開設し、6次産業化に取り組む。
- 平成27年に米価下落の対策として耕畜連携による稲WCSの栽培を実施し、令和2年度から飼料用トウモロコシの栽培に取り組む。

## 取組内容

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲WCSを栽培し、生産した稲WCSを飼料として畜産農家へ供給。平成28年にWCS生産組合を設立。
- 堆肥を供給した圃場で生産された農産物の一部を店舗で販売するジェラートの原料として使用し循環型農業を推進。
- ジェラートショップを運営し幅広い客層が来店することで地域交流の場を提供。

## 活動の効果

- 耕畜連携の拡大は、耕種農家の収益等の向上、畜産農家の飼料コスト低減や飼養規模の拡大に繋がり、相互にメリットがある取り組みとなっている。また、地域の相互交流で、地域が一体となって農業を盛り上げようとする気運が高まっている。
- ジェラートショップの運営は、さらなる環境整備や安全・安心な生乳生産に活かされているほか、チーズの製造・販売によりさらなる地域交流と消費者交流を進めている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

さらなる消費者との交流や耕畜連携の拡大を進めるため、ジェラートだけではなく令和元年度に整備したチーズ製造施設(工房)で、今後販売するチーズを試作中です。

## 香川県三郎池土地改良区

## ～ため池のクリーン作戦と多面的機能のPR～



池内での活動状況



地域の小学校での校外授業

## 経緯

- 平成3年度に県営利活用保全施設整備工事を実施し、堤防エリアを公園整備し地域の憩いの場とした。
- 近傍にある日山の登山道の整備と相まって利用者は増加し、ゴミ対策と景観保全が課題となった。
- 平成22年からクリーンアップ作戦を展開している。

## 取組内容

- 平成22年から、3年に1度池干しのための落水にあわせてクリーンアップ作戦を実施。平成25年、29年に引き続き令和2年11月にも実施し、約100人の参加により800kgのゴミを回収した。
- 平成25年からクリーンアップ作戦に合わせ、小学生の校外授業として三郎池に住む生物について淡水魚の専門家を招き説明会を実施している。
- 地元小学校等での出前授業を実施。

## 活動の効果

- クリーンアップ作戦により池の水質改善がみられるようになったことに加え、捕獲したすっぽんを小池に放流したところ、ジャンボタニシの駆除に成功した。
- 貯水量170万トンを超える三郎池の多面的機能を地域住民に理解してもらうとともに、緊急時の避難経路等について三郎池の存在を意識した計画が策定された。
- 池干し時に外来種の生物を駆除することにより、三郎池に生息する在来種の保護を推進している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

クリーンアップ作戦だけでは手の届かない部分について対策を講じたい。今後も地域の方と連携してこの活動を継承し、ため池の適切な維持管理に努めたい。



しわくぶたい しこくむちゅうじん

## 塩飽部隊(四国夢中人)

～瀬戸内の島に花と昆虫の楽園を作ろう～



島民と京大生による竹林伐採



香川丸亀養護学校の生徒による植栽

## 経緯

- 香川県丸亀市沖の手島は人口わずか20人で、高齢化率は90%。2016年11月に3人の京大農学部学生と島を訪問。島に生きる人たちの力強さに感銘を受け、塩飽諸島を盛り上げるための活動が必要だという思いを抱く。
- 手島を瀬戸内のモデルアイランドにしようと、手島の住民、京大生、NPO「四国夢中人」によって任意団体「塩飽部隊」を設立。

## 取組内容

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の現地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集合し、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人You-Tuberによる手島の動画配信中。

## 活動の効果

- 塩飽部隊は、様々な分野の人の集まる場所として、島の資源を活かした取組を実施。これらの活動を英語版YouTubeを通じて国内外に発信することで、メディアにも取り上げられ、「手島」の認知度が上がった。
- 春、夏、秋の四季折々の花が島のメイン道路で咲き、島民たちに癒しと賑わいを与えている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

様々なジャンルの学生(京大農学部・香川大学農学部・岡山理科大学有志、養護学校園芸部)や外国人ALT(英語補助指導教諭)等や島民と共に、「人と自然が共生できる空間」を目指している。将来に向けて持続可能な活動として移住促進、海洋ごみ、空き家対策などの問題を地道に解決していきたい。

丸亀市7番丁71 Tel: 0877-23-7262

## 油井水土里保全組合

～各種団体の連携、協力による農村環境づくり～



地域の神社境内での三世代交流スポーツ大会



広庄池の草刈り

## 経緯

- 圃場整備をきっかけとして、高齢化や混住化に伴う遊休農地の解消と、江戸時代から受け継いできた広庄池等水資源の維持管理を図る。
- 新興住宅地の若い世代の協力を得て地域全体の環境活動とするため、農地・水・環境保全活動への取り組み。

## 取組内容

- 広庄池の堤防にスイセン、ヒガン花、堤外には萩、アジサイを植えて管理。水路法面には、センチビートグラスを植栽し雑草防止、法面侵食防止を図り、定期的に水路清掃を実施。
- 旧五兵池に梅、桜、藤、ツツジを植栽し公園化。また、ビオトープ(500㎡)を造成し、ホタルの幼虫と餌となるカワニナを放流。
- いきいきふれあいサロンを通じて三世代交流の活性化を図るほか、地域ぐるみで参加できる催しを行う。

## 活動の効果

- 自治会、老人会、自治消防団、婦人部、子供会、水利組合、油井水土里保全組合など各種団体の連携を図り、協力体制を構築のうえ様々な保全活動に取り組んだ結果、地域の環境づくりに役立っている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

美しい農村環境と様々な遺跡・伝説・それらを育んだ地域資源を守り、環境を重視した住みよい、楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

ごとうさとづくりのかい

## 五郷里づくりの会

～「GOGO五郷！」文化は山から降りてくる～



ピザ石窯・建屋を手づくりで建設



里山歩き



みかん狩り体験

## 経緯

- 人口減少や高齢化が進む中、平成17年の市町合併による「五郷の地名消失」や平成18年の「五郷小学校の廃校」により地域のつながりが消失の危機。
- 地域コミュニティの存続が危ぶまれる中、平成23年、地域活性化活動の母体となる「五郷里づくりの会」を発足。

## 取組内容

- 地域活性化のシンボル、伝統文化の継承施設として「五郷水車」を復活させ、「水車米」の精米、もち米やそばの製粉などに活用。
- 手づくりのピザ石窯でのピザ作り、そば打ち・みかん狩り体験や人気のコンニャク作り等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。
- 地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、郷土料理でもてなす5コースの里山歩きツアーを開催。
- 郷土料理は大好評を博している。
- HP、SNS、「里づくり新聞」で情報発信。

## 活動の効果

- 年々広がっていく活動や取り組みにより、地域住民の理解が高まっている。地域の団結力が一層強まり、「人が輝く里山づくり」に向けて着実に進んでいる。
- 郷土料理(こもけ団子汁)は、一般の多くの方から好評を得ており、訪問者の増加に貢献している。ピザづくり体験、そば打ち体験、みかん狩り体験等も人気である。
- 五郷地区の知名度が上がり、豊稔池を始め地区を訪れる人が増えている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

五郷は、五感に訴えかける魅力ある場所です。ぜひ一度、魅力ある五郷へ足をお運びいただいて、感じとってください！お待ちしております。地区内にも農家民宿があります。

HP: <http://gogou.jp/> Fb: 五郷里づくりの会

観音寺市大野原町井関538-4 Tel: 0875-54-3984

かんおんじ ほんむらちくかんきょうほぜんかい  
観音寺市 本村地区環境保全会

～子供達に残す豊かな田園 皆で取り組む環境保全～



田植え前の克己営農組合メンバー



ひまわりを楽しむ介護施設の方々

## 経緯

- 農業者の減少や高齢化に伴う農業用施設の維持管理を地区全体で行うために設立。
- 本村地区の自然、環境、資源や伝統文化の大切さを後世へ継承してもらうことを目的とし、地区内の各種組織を構成員として活動を行う。

## 取組内容

- 景観形成のためのコスモスやひまわりを子供会、長寿会、営農組合が協力して栽培することにより、世代間の交流を促進。
- 5つの池、開水路及び農道の環境整備、EM菌利用による生ごみの堆肥化及び水路の水質浄化活動。
- 伝統文化遺産の保持、継承。
- 今年度よりレモン苗木を定植。

## 活動の効果

- 世代を越えた活動により、地域内の交流が活発となり、住民同士の連帯感、協力感を生み出すことができている。また、共用設備の補修による長寿命化や更新等で、防災・減災にもつなげている。
- ひまわりの作付面積を増やしたことで、鑑賞者が増えフォトスポットになった。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

自然、環境、資源、伝統文化を守り、次世代に継承するとともに、住みやすく楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

おおのはらちいきしげんほぜんかい

## 大野原地域資源保全会

～子供会との清掃活動で地域を守る人間づくり～



カーブミラーの清掃



親子で協力して清掃

## 経緯

- 地域の国道、県道沿いで水路や農地に空き缶等の投げ捨てが多くその対応に苦慮。
- 平成26年度より多面的機能支払事業に取り組み、地域の環境保全活動を行うことにより地域住民が交流・連携することを目的とするとともに、子供会も含めた清掃作業を行い、地域を守る人間形成を目指すこととした。

## 取組内容

- 地域内にある子供会に呼びかけ、子供達を中心に保護者が付き添い、ゴミ拾い、カーブミラーの清掃等の環境保全活動を実施。

## 活動の効果

- 子供達が地域の大人たちと活動を行うことで顔見知りになり、挨拶ができるようになった。大人もどんな子供が住んでいるのかわかり、声かけするなど防犯上の効果が見られ、地域との関係が良好になってきている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

豊稔池土地改良区の受益地域で多面的機能支払交付金活動を実施している。活動組織を中心に他地域と連携協力し、この活動が旧大野原町全体に広がるようPRしていきたい。

高松市番町五丁目1番29号 Tel: 087-832-7140



みなみがわじねんじょけんきゅうかい

## 南川自然薯研究会

～「特産の自然薯」で地域おこし、全国発送へ～



自然薯直売所・南川自然の家



中学生との自然薯掘り体験学習

### 経緯

- 昭和62年、農家の有志が転作作物として自然薯栽培を開始。
- 品質の向上に向けて、試行錯誤を繰り返し、次第に品質の良いものができるようになり、今では県内外でも有数の産地となる。
- 平成元年4月に研究会を設立。
- 平成13年に全国宅配、じねんじょまつりを開始。
- 令和元年度の栽培は1.7haで、2,800kgを収穫し完売。

### 取組内容

- 年3回、栽培履歴の作成を含めた栽培圃地巡回研修を実施。
- 地域の一大イベントとして南川じねんじょまつりを開催し、自然薯を使った料理コンテストなどを実施。
- 中学生等の自然薯掘り体験学習の実施。
- 地元での直売、全国への宅配、各種イベントへの出店など、積極的に販路を拡大。

### 活動の効果

- 地域高齢者の生きがい対策と地域を元気にする起爆剤となっている。
- 収穫物は直売と全国宅配で完売、消費者との信頼関係を構築。
- 地域の一大イベント「じねんじょまつり&収穫感謝祭」を毎年12月に開催し、地域内外の人との交流を通じて地域が活性化。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

これからも地域だけでなく関係機関と連携し、後継者を育成しながら生産量の拡大を図り、消費者ニーズに対応していきたい。

とよたきょうてい

## 豊田協定

～被害をゼロに！「集落ぐるみ」で獣害対策～



獣害対策で、県内外から多数の視察を受入れ



「集落ぐるみ」で元気に草刈り作業

## 経緯

- 平成8年頃にイノシシ、サルによる農作物被害が集落全体で認められるようになり、農業者の中には、作付けを諦める者も現れる。
- 獣害の影響から集落の中央部に位置する基盤整備田でも休耕地となる場所が発生し始めた。
- 集落や農用地の存続に危機感を覚えた有志数人が平成17年に「集落ぐるみでの獣害対策」を唱える。

## 取組内容

- 共同家庭菜園の運営、山際に防護柵とストップゾーン(緩衝帯)を設置。
- 集落を囲む侵入防止柵の設置、集落内の農家・非農家を含めた全員による維持管理。
- 効率的に有害鳥獣を捕獲し、一部を処理・加工して販売。
- 営農集団を設立し、農作業受託を推進しながら、酒米を作付け。

## 活動の効果

- 平成23年度以降、野生鳥獣による農作物被害がほとんど認められなくなり、休耕地120aを復田。集落内で相互の関心や話し合いの機運が高まる。
- 県内外の獣害対策を講じようとする自治体、団体等の先進事例となり、県内外から多くの視察を受入。
- 非農家を含む全戸が施工、維持管理に携わる事で関心や責任感を形成。侵入情報等の共有化が早まり効率的な獣害捕獲に繋がる。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

作業の効率化や地域特産物による所得向上に取組み、新たな担い手確保に努めます。これからも、「集落ぐるみ」で、魅力ある集落を次世代へ引き継ぐ取組を継続したいと考えています。

さぬき市大川町田面2094-2 Tel: 090-1574-6448

かぶしきがいしゃそとれいくひけた

## 株式会社ソルトレイクひけた

～ハマチ養殖発祥の地、安戸池で海と、魚と友達になろう～



はまちまるごと学ぼう



ひけた鰯の入荷

## 経緯

- 東かがわ市がハマチ養殖発祥の地「安戸池(あどいけ)」に漁業体験施設「マーレリッコ」を建設する際に、施設の管理運営を担う組織として設立。
- 養殖漁業の体験や地域ブランド「ひけた鰯」を活用した食育教室を展開することにより、施設への集客を図ることとした。

## 取組内容

- 養殖体験施設、食堂、管理釣り堀を運営し、香川県等とともに連携しながら、東かがわ市の推進する着地型観光の一翼を担う。
- 地域イベントに積極的に参加し、施設のPRに努める。
- スタッフが香川県認定の「お魚一匹食べよう伝道師」等の資格を取得し、幅広い年齢層に魚食教育の普及に努める。
- 地域ブランド「ひけた鰯」の解体実演による販促活動を実施。

## 活動の効果

- 活動がTVやマスコミ等に取り上げられることが増え、体験学習館の知名度が向上し、多くの小学校等の校外学習の受入れにつながっている。
- 団体向けハマチ解体実演は口コミ等により自治会、婦人会からの依頼が増加し、出張しての魚食教育、実演等も行うようになった。
- 外国からの旅行者からも好評を博している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

解体実演を商品として販売する取り組みを通じて、過疎地域である東かがわ市への交流人口の増加に寄与したいと考えています。

だいちとかたりあうかい

## 大地と語り合う会

～農業はいのちと語り合う営みである～



ボイセンベリーの果実



ボイセンベリーの商品(果汁・ジャム)

## 経緯

- 安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたい地元農家の主婦達が集まり、「大地と語り合う会」を結成。
- 休耕地の有効利用、地域活性化、高齢化社会に役立つ農作物として木イチゴの一種である「ボイセンベリー」の栽培を開始。

## 取組内容

- ボイセンベリーや野菜栽培は、減農薬または栽培期間中、農薬不使用で取り組む。
- 定期的な勉強会や情報交換を通じて、地域の環境に適した施肥設計を完成。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁、ジャムなどの加工品を製造・販売。加工残渣も化粧品等の原料として販売。
- 平成29年に新たな加工場、直売所兼カフェを建設。

## 活動の効果

- 野菜や加工品の販売及び各種イベントへの出店を年間90回実施(令和元年度)。
- 海外でのボイセンベリー栽培の研修を実施し、三豊市の「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要領」を作成(栽培技術の向上に寄与)。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

休耕地の有効利用と若者達とのボイセンベリーや野菜栽培に心を繋ぎ、「心の豊かさ」を求めて今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

ただ ひろみ  
 多田 弘美

～農業はいのちと語り合う営みである～



ボイセンベリー果実の瞬間冷凍



直売所兼カフェ

## 経緯

- 安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたいと思う、地元の農家の主婦たちが集まり、「大地と語り合う会」を結成。
- 地域の活性化、休耕地の有効活用になる農産物を探し求め、目に良いとされるポリフェノール(アントシアニン)が豊富で、高齢者の健康増進に役立つボイセンベリーにたどり着く。

## 取組内容

- ボイセンベリーは地元企業が製造販売している香川県産孟宗竹農業資材を使用し、減農薬または栽培中農薬不使用で取り組む。
- ボイセンベリーの加工品には、「ボイセンベリーみとよ」の商標を取得し、ブランド化を図っている。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁やジャム、加工した際に出た搾り粕を化粧品の原料や竹発酵資材使用肥料の原料として販売。
- 平成29年に新しい加工場と直売所兼カフェが完成。

## 活動の効果

- 減農薬または栽培中農薬不使用のため、多くのお客様から重宝されている。
- 海外での研修や勉強会を開くことにより、「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要項」を作成。栽培技術が向上し、実も大きく糖度の高い甘い実ができるようになった。
- ボイセンベリーの生産を図る活動の中で、8年間閉じこもり状態だった青年に出会い、ボイセンベリーの栽培を指導する中で社会復帰のお手伝いをすることができた。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

私たちの役割は、休耕地の有効活用と若い世代の人達とボイセンベリー栽培、野菜の栽培に心をつないで自然を大切に、地元の活性化に繋げるよう今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

しもたかせこどもすこやかぼらんていあ

## 下高瀬子どもすこやかボランティア

### ～子どもが育ち、地域が支えるファーム活動～



昔の道具、定規で田植えの指導



水車を用いた水入れ体験

#### 経緯

- 米の減反政策が行われていた26年前、休耕田の有効活用を考えていた代表と下高瀬小学校職員の思いが一致し「下子どもすこやかファーム」が誕生した。
- 子どもたちに何か役立つ農業体験をさせたいと思った代表夫妻が水田を学校田として貸し出し、稲作指導を始めた。

#### 取組内容

- 専門的な知識や技能を持つ地域ボランティアとともに下高瀬小学校のファーム活動を支援。
- 第1ファームでは、イチゴや黒豆、サツマイモなど野菜を栽培。  
第2ファームでは、「特色ある米作り体験活動」として、昔ながらの道具を使う手作業体験や、アイガモ農法を実施。収穫後は調理したり、地域行事で販売したりするところまで児童が行えるようにサポート。

#### 活動の効果

- 年間を通しての米作り体験学習で、児童は育てる仕事の大変さ、昔の人の知恵や工夫、命と食のつながり、感謝する心など多くのことを学んでいる。今後は古代米の作付けや「稲作アート」にもチャレンジしたい。
- 長年にわたる活動は、地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールの具体的な姿の一つとして、重要な役割を果たしている。

#### 応募団体からのアピール・メッセージ

メンバーはみんなの笑顔のために頑張っている。今後も子どもたちや先生方と感動を分かち合い、このやりがいのある活動を続けていきたい。